

市民のための政治を取り戻す！ 年初めからダッシュ！



解散・総選挙、市長選挙、知事選挙、
市民の手に政治を取り戻す

チャンスの年

十二月議会、奥山市長と一問一答で市長の政治姿勢をただす議論をしました。被災者に会いに行くこともせず復興事業を終わらせたこと、保育所待機児童解消の公約の投げ捨て、若者支援や公共交通施策での問題点などの課題でもこれ以上市長を続けさせられないひどさです。

とりわけ、放射性汚染廃棄物いっせいで焼却を進めようとする知事と、協力する



1月2日初売りで、ふなやま由美市議、高橋ちづ子衆議院議員と

市長は、どちらにも取り換えなければなりません。市民と野党の共同を広げかちとりましょう。

来るなら来い！ 衆院比例東北ブロックで2議席を

解散・総選挙はいつあってもおかしくない情勢です。小選挙区で本格的な野党共闘を進めるとともに比例代表選挙で共産党の議席を増やします。東北ブロックでは、高橋ちづ子議員に加え二議席をとるたたかいです。

ふなやま由美市議（太白区）が比例代表選挙への挑戦を決意しました。庄司幸助さん以来となる宮城・仙台からの党国会議員をかならず誕生させるために私もおんばります。

ふなやま由美（船山ゆみ）さん
1968年、丸森町生まれ。角田女子高卒。宮城県総合衛生学院卒。1991年、宮城厚生協会長町病院に就職。保健師、看護師、ケアマネージャとして、命と健康を守る第一線で11年間働く。2003年4月、仙台市議（太白区）に初当選。現在四期目、党市議団政調会長。衆院比例東北ブロック予定候補者。

放射性汚染 廃棄物焼却

市民の運動で「半年棚上げ」 国の責任で管理せよ



12月27日 市町村長会議会場前でスタンディング

焼却は無意味

放射性物質拡散のリスク冒すな

放射性物質の焼却について、市民の反対の声が大きくなり、十二月二十七日の市町村長会議では、知事の押し付けは失敗しました。燃やさない、集めない、埋めないで、見えるところで管理することが大切です。国の責任で自治体ごとに管理施設を作らせることこそ、知事がイニシアを取り、仙台市長が他自治体と力を合わせるべき方向だと思えます。

放射性セシウムは
燃やしても無くなりません

放射性物質に汚染された物を一般のごみと混ぜて焼却するとかえって管理すべき汚染された焼却灰が増え、てしまいます。

その焼却灰を一般のごみ焼却灰と同程度の管理基準で最終処分場に埋めるのは、管理を放棄したのと同じです。

煙突から放射性物質が拡散する危険もあり、安全を確認する方法もい加減です。

どうすればいい？ 議会で私が行った提案

※廃炉などに伴う高レベル放射性廃棄物と違い、放射性セシウムによる汚染廃棄物は8000ベクレルを超えるものであっても放射線が出てこないように、コンクリートなどでしゃへいすることは比較的簡単です。あとは水が入り込み流れ出ないように50年100年と管理することが、放射線防護・管理の基本です。全県の廃棄物を集めたりせず燃やしたりもせずに、自治体ごとに管理施設を人が日常見るところに国の責任で作る、そのための人の配置も行わせることが現実的だと私は考えます。市長も、そう思いませんか。

(2016年12月14日仙台市議会本会議)

全県の放射性物質を仙台に
集めることになる知事方針

この全県一斉焼却が行われるとすると、混ぜて燃やすための一般のごみと焼却能力がある仙台市に大半が持ち込まれることとなります。市が昨年市民の反対を無視し強行した焼却の量とは比べ物にならない大量焼却です。葛岡の清掃工場でも毎日何千トンも燃やさざることをよります。

- ① 昨年仙台市が市内の放射性汚染廃棄物を燃やしたのは520トン
- ② 全県の焼却対象は36000トン